



“学びの森”だより

冬はつとめて



師走を迎え、カレンダーも残り1枚になりました。小春日和が続いていた先月からは一変し、一気に冬へと突入です。「冬はつとめて」と平安時代を代表する女流作家は、この時期の最も好ましい時間帯を「早朝」とし、「をかし」と表現しました。彼女のような研ぎ澄まされた感性をもたない自分ではありますが、早朝の散歩を日課にしていると、寒さの中で感じる東の空の明けやらぬ時刻の美しさは、冬ならではの光景に思えます。「早起きは、三文の得」とばかりに、今朝も、徐々に白んでいく空と、雄大な富士山の美しさを独り占めしてきました。もう少し「かはたれ(彼は誰)」時の散歩は続けていこうと思っています。

「森の道標」から見えたもの

6月からスタートした今年度の「森の道標」でしたが、計画した内容の3分の2程度が終わろうとしています。2年目から5年目までの若手の先生方を中心に実施した授業参観。昨年度からは、授業づくりの最初の段階から、先生方と一緒に考えてみようというスタンスで、希望する方を対象に事前研修も行ってきました。

そんな中、最近、授業者となる先生方から、「学年で検討してみました。」という言葉が多く聞かれるようになりました。西小学校での事前研修のことです。「5年部では、校内の研修テーマである『対話を通してみんなでつくる授業』を受けて、子供たちの学ぶ楽しさや意欲が持続するような単元構想を、日々、学年部で話し合いながら授業を行っています。」という内容の話聞くことができました。12月に実施予定の単元は「短歌・俳句をつくろう」です。本時のねらいは、俳句そのものを創作することではなく、「自分の伝えたいことを、伝えるようにするために言葉を吟味する」というものでした。授業当日までには、10日間もあったのですが、事前研修の際に、7時間分の単元計画が詳細に書かれた細案が既に出来上がっていたのには驚きました。学年主任を中心にした「チーム5年部」の中で、確実に育てられている若手の成長を感じた時間でした。

「小学校には学級間の垣根、中学校には教科の壁、高等学校においてはプライドの高い壁が存在し、教師の成長を妨げる。」という話を、以前、耳にしたことがあります。しかし、そういう垣根や壁を越えて教員同士が学び合う姿勢そこが、今、求められているものであり、本当の意味での「子供ファースト」は、そんなところから始まるのではないかと思うのです。(文責：指導員 照井久美子)



写真：「市2年次研修(異校種交流会)」富中の先生方の研修に参加し、学年に合った学び方や机間支援等いろいろな考えを聞き、吸収しようという姿がありました。

「森の道標」導入編

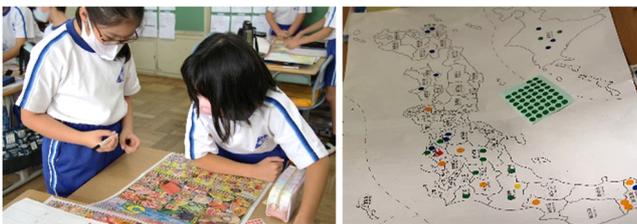


今年度 74 回の授業に訪問し、約 9 割に事前研修を行いました（11 月末調べ）。日頃学びの森では、授業についていろいろな話を共有しています。その中に、子供の実態をとらえた仕掛けを使って、丁寧で楽しい導入でやる気を引き出した授業がありました。事前研修の前に送られてきた指導案からも「子供たちが楽しんで学習できる授業にしたい。」という思いが伝わり、応援したくなりました。そんな明るい話題に沸いた授業の一部を紹介します。

以下は、小3社会「はたらく人とわたしたちの暮らし『店ではたらく人』」（11/15 時）の導入の一部です。

※自分たちが開くスーパー「スリーピースーパーマーケット」に並べる食材を仕入れるために、食材の仕入れ先を調べなくてはなりません。前時までには、スーパーにはどんな商品や仕事があるか確認をし、置きたい商品のアンケートを実施しました。

先生	子供
 <p>（←店内には、空っぽの商品棚。棚は用意したのに、社長はどこから商品を仕入れたらいいかわからなかったのです。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（商品を）どこで揃えればいいのか？コーナーは作ったのに。（商品は）どこで仕入れるの？★1 ・確認したいんだけど、みんなどこに住んでるの？★2 ・じゃあさ、裾野市で全部揃うかな。裾野市でお肉だったら揃うんじゃないの？って人。野菜だったら揃うんじゃないの？お魚はどうか？★3 ・（裾野市で）全部揃うか不安だな、って人。★4 ・今日のテーマです。「スーパーマーケットに並べる食材はどこから仕入れればいいのか。」社員の皆さんの協力がないと、このままじゃお店は作ったのに売ることがないよ。★5 ・みんなだったらどうやって調べる？ ・お！今誰か言ってくれたよ。他のお店が何処で買ってるのかなって調べられるアイテム（チラシを見せる）★6 ・前回の勉強で、チラシには値段ものってるし、★7 <p>じゃ、これがあれば調べられる？</p> <p>（各グループに異なった店のチラシを複数枚ずつ配る）</p>	<p>うわー！ははっ！空っぽ！何にもない！棚だけ！全部の棚に商品がない！</p> <ul style="list-style-type: none"> ★1:取り寄せる！釣ってくる！工場で買う！農家の人に聞く！ ★2:裾野市！ ★3:(肉・野菜→挙手) (魚)海がないじゃん。 ★4:(挙手多数) ★5:(口々に)パソコン・他の店で聞く・ウバー・イーツ・広告・チラシ… ★6:チラシか～ ★7:どこから来てるかも載ってる！



（写真）新聞に入っているスーパーのチラシを使って、取り寄せられそうな都道府県などを調べ、白地図に品目毎に色分けしたシールを貼ります。

＜学びの森 指導員から＞

子供たちの目線で授業を考える時、「場の設定（目的）」が重要です。今回は、事前研修の段階で「自分たちのお店を作る」という場を設定しました。その後は先生が「子供たちを楽しませたい」という強い思いで、たくさんの仕掛けを考え、その思いは、生き生きと活動する子供たちの姿となって現れました。子供たちと教材に真正面から向き合う先生の姿勢が、今回の授業の原点です。

富岡中で開催された「市2年次研修会」では、伊藤若冲 筆「樹花鳥獸図屏風」を鑑賞しました。等身大のレプリカを教室で広げると、想像以上の迫力があります。借用方法・教材については、[県立美術館 HP 学校・先生向けプログラム](#)をご覧ください。



編集・発行：「学びの森」
〒410-1102
裾野市深良 435 番地
生涯学習センター2階
TEL：055-995-4903
FAX：055-995-4904